

「香月小学校の『郷土の歴史を学ぼう』の取組」

1 学校名

志布志市立香月小学校

2 学年・人数

6年生 54人

3 日時・場所

令和6年1月25日（木）10:25～11:10（体育館）

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 現在の志布志市街地の歴史について

鎌倉末期・南北朝時代～現在

(2) 主な内容

地域人材活用の授業

古くから港町、城下町として栄えた志布志の歴史について、小学生が理解できることを中心に学習した。住居が現在の志布志小学校付近に密集していたこと、大慈寺の敷地が現在の香月小学校区にかけて広大であったこと、明治の廃仏毀釈以降次第に大慈寺より西の地域に住宅が広がっていったこと、「新町」など、現在の地名、香月小学校の校名の由来などを学習した。

5 保存会や地域との連携の具体

講師：香月自治会長 米元史郎

学校運営協議会で郷土史の講師について相談し、米元氏の推薦があったことから、直接今回の学習について打診し、承諾を得た。観光案内や他校での指導も経験がある方である。

6 活用の取組の工夫した点

事前に講師と担任との打合せを行い、資料を画像にし、プロジェクターで拡大提示した。また、講師の手作りによる大きな地図を活用した。

小学校の名前の由来

新設学校の校名検討で、学校に隣接する集落名が好感を持たれて命名され、校区名にもなっています。
(香月小学校は志布志町安楽、香月集落は志布志町志布志なのに)

↑ ↑ ↑ ↑ ↑

香月集落名(昭和10年発足)は、明治時代から志布志湾に入港していた帝国海軍連合艦隊の軍人さんと地域交流・親睦の中で、香月という名の将校さんから素敵な名前として承諾の上頂いたものです。

もう一つの香月小学校

福岡県北九州市八幡西区にも香月小学校があります。

実はこの学校のある土地が、志布志の香月小学校の名前のルーツの土地といえます。

先に紹介した「香月さん」という苗字は現在佐賀県や福岡県に広くみられますが、元は北九州市八幡にあった「香月庄(かつきのしょう)」という荘園(土地)を治めた豪族が、苗字として名乗ったことが起源で、全国に広がったものです。

(鹿児島島の殿様島津氏の苗字が「島津庄」(しまづのしょう)=都城を治めたことによるのと同じ)



(活用した資料)

7 取組の様子



(事前打合せ)



(地図を使った説明)



(資料を使った説明)



(児童のお礼)

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

- ・ 香月小学校区の歴史について初めて学び、大変興味をもった。更に詳しく学習したい。
- ・ 古い住居は、志布志小校区に集中し、香月小校区の住居は昭和以降であることが分かった。

【教職員】

- ・ 「新町」が新しい住宅地であることなど、地名の意味や由来を知ることができ、教師自身の研修になった。
- ・ 社会科の歴史の学習を発展させることができた。今回の学習をきっかけに郷土史に興味・関心をもたせたい。